

取 扱 説 明 書

ノーパンクタイヤチェンジャー パワーマックス PMX-100型



※取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社まで請求してください。



警 告

製品を使用する前に必ず取扱説明書をよく読み、充分理解してから使用してください。
この取扱説明書はいつでも使用出来るよう大切に保管してください。



ONODANI

TIRE SERVICE SOLUTION

目 次

1. まえがき	1
2. 使用目的	1
3. 危険・警告・注意事項	2
(1) 一般的な注意事項	2
(2) 警告ラベルの内容	4
4. 各部の名称と機能	5
(1) 各部の名称と機能	5
(2) アタッチメント・付属品の名称と機能	6
(3) 機械の吊り方	7
(4) 電気回路図	9
(5) 油圧回路図	10
5. 取り扱い方法	11
(1) 始業点検	11
(2) 操作スイッチと各部の動作	12
6. 操作手順	14
(1) タイヤ脱着時の警告・注意事項	14
(2) DTリム(合わせホイール)のタイヤ脱着	15
(3) 3ピースSDCリムのタイヤ脱着	19
(4) 2ピースリムのタイヤ脱着	23
(5) 4ピースTBリムのタイヤ脱着	26
7. メンテナンス	31
8. 作動不良時の処置	32
9. 仕様	33
(1) 保証規定	33
(2) 本体寸法	33
10. 製品保証規定	34
(1) 保証規定	34
(2) 保証請求方法	34
(3) アフターサービスについて	35
(4) 設置(据付)及び移動について	35

1. まえがき

この度は弊社のノーパンクタイヤチェンジャー「パワーマックス PMX-100」をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本機をご使用になる前に必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用ください。取扱説明書に記載されている注意事項および使用方法をよくご理解頂かないと本機の適正な能力を発揮できないばかりか、人身事故やタイヤ・ホイールの損傷につながりますので、充分ご理解のうえ、正しくご使用ください。

また、この取扱説明書はいつでもご使用になれますように大切に保管してください。

尚、取扱説明書・注意ステッカー等は大切に保管・貼付して頂き万一、紛失・汚損された場合には速やかにご購入のうえ、正しく保管・貼付してください。

2. 使用目的

このタイヤチェンジャーはノーパンクタイヤの交換を行うことができるタイヤチェンジャーです。

3. 危険・警告・注意事項



警 告

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は、安全作業のために重要な事柄です。

人身事故や財物損害防止のために重要な事項が記載されていますので、必ず理解してからご使用ください。



危 険……取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警 告……取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う恐れが想定される場合。



注 意……取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

(1) 一般的な注意事項

- ①取扱説明書をよく読み、よく理解してから使用してください。
- ②このチェンジャーの操作は、使用方法を熟知した人以外は使用しないでください。
- ③始業点検及び定期点検は、取扱説明書の本文の指示に従って、必ず実施してください。
- ④運転時に異音発生等、普段と異なる状態の時は、チェンジャーの使用を禁止し、お買上げの販売会社に連絡して、点検を受けてください。
- ⑤本機は防水仕様になっていませんので、屋外設置や水による洗浄等は避けてください。
- ⑥このチェンジャーはノーパンクタイヤ交換以外の目的に使用しないでください。



警告

ネジシャフトの耐用年数は5年となります。
納入後またはシャフト交換日より5年間のご使用で次回シャフト交換が必要となりますのでご注意ください。
(ネジシャフトまたはロックナットに出荷年月の刻印がございます。)

●ネジシャフト刻印(2022年12月出荷の場合)



●ロックナット刻印(2022年12月出荷の場合)



(2) 警告ラベルの内容



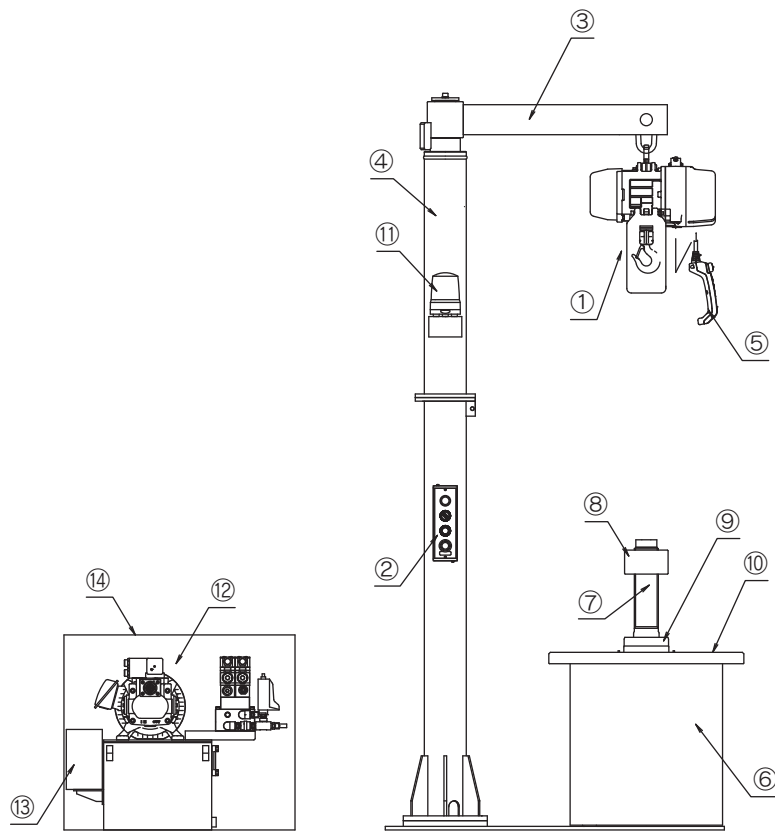
注 意

警告ラベルは大切に使用してください。剥がれたり汚損した場合は速やかに購入のうえ、正しく貼付してください。



4. 各部の名称と機能

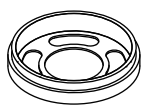
(1) 各部の名称と機能



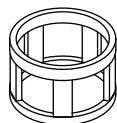
No.	名 称	機 能
1	チェ ー ン ブ ロ ッ ク	タイヤ、アタッチメントの吊下げ
2	操 作 ボ ッ ク ス	本機の操作用
3	旋 回 ア ー ム	
4	支 柱	
5	チェ ー ン ブ ロ ッ ク 操 作 ボ ッ ク ス	チェ ー ン ブ ロ ッ ク の 上 下 操 作
6	本 体	
7	ネ ジ シ ャ フ ト	
8	ロ ッ ク ナ ッ ト	
9	ピ ス ト ン ロ ッ ド	
10	テ ー ブ ル 板	タイヤ、アタッチメント類設置部
11	警 告 用 回 転 灯	高圧時の使用者への警告用
12	油 圧 ユ ニ ッ ト	油圧発生装置
13	制 御 ボ ッ ク ス	本体制御用電源部
14	油 圧 ユ ニ ッ ト カ バ ー	

(2)アタッチメント・付属品の名称と機能

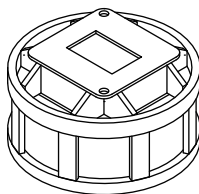
①スペーサー



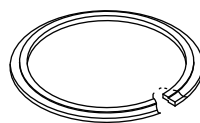
②円筒リング



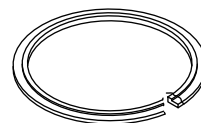
③脱着リング



④サイドリング押え



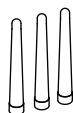
⑤タイヤ押えスペーサー



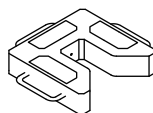
⑥タイヤガイド



⑦テーパーピン



⑧プレッシャープレート



⑨ロックナット



⑩センタリングスペーサー



No.	名 称	仕 様	数 量	機 能
①	スペーサー	15", 16", (20")※1	各1	ホイール受け
②	円筒リング	6"	1	小径タイヤ交換
		8", 9", 10"	各2	
		12"	6	
③	脱着リング	15", 16", (20")※1	各1	大径タイヤ交換
④	サイドリング押え	15"	2	3ピースホイール交換
		16", (20")※1	1	
⑤	タイヤ押えスペーサー	15"	2	3ピースホイール交換
		16"	1	
⑥	タイヤガイド	8", 9", 10", 12"	各1	4ピースホイール組込補助
⑦	テーパーピン	太, 細	各3	合わせホイールボルト穴合わせ
⑧	プレッシャープレート	大, 小	各1	ロックナット下に挿入
⑨	ロックナット		1	アタッチメント押え
⑩	センタリングスペーサー	12"	3	アタッチメント芯ずれ防止
⑪	タイヤハンガー		2	タイヤ吊下げ
⑫	両端フック付ワイヤー		1	アタッチメント, タイヤ吊下げ
⑬	落下防止チェーン		2	プレッシャープレート落下防止
⑭	リング抜きレバー	3種類	各1	リング脱着
⑮	オールアンカー	M12×70	3	本体固定用

※1 ()仕様はオプション品です。

アタッチメント類は識別のために以下のように色分けされています。

20"ー赤 12"ー青
 16"ー黒 10"～12"ー赤
 15"ー黄 8"～9"ー黒

標準アタッチメント以外にもお客様のご要望により別作アタッチメントも製作致します。

(3)機械の吊り方

・以下の玉掛け用具を用意してください。

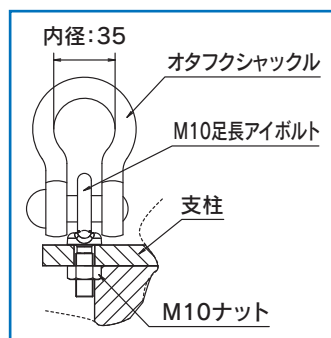
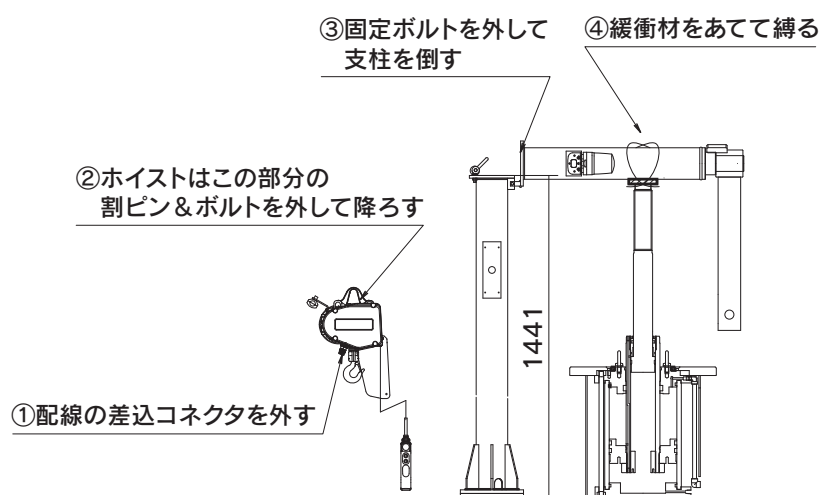
玉掛け用具	個 数
全長2mスリングベルト	1本
全長1.5m以上の2本吊り用チェーンスリング	1本
M16アイボルト	2個
ネジ部30mm以上のM10足長アイボルト	1個
内径35以上のオタフクシャックル	1個
M10ナット	1個
緩衝材(ウエス、段ボール等)	

1. 機械のブレーカーを断ち、チェーンブロックの配線差込コネクタを外します。
2. 旋回アームからチェーンブロックを外します。(チェーンブロックの割ピンとボルトを外すと降ろせます。)
3. 機械のブレーカーを入れ、固定ボルトを外してクレーン装置で支柱を倒し、支柱と本体が平行になるようにします。
4. 操作ボックスでネジシャフトを上下し、支柱の間に緩衝材を当てて縛ります。
5. 機械のブレーカーを断った後、電源線を外してください。
6. 油圧ユニットから油圧ホース、制御ボックスから電源コネクタを外します。
7. ピストンロッドと支柱に緩衝材を当てて、チェーンスリングで傷が付かないようにします。
8. テーブル板にM16アイボルト2個を取り付けます。
9. 支柱の固定ボルト通し穴にM10足長アイボルト1個、M10ナット1個、オタフクシャックル1個を取り付けます。
10. テーブル板のM16アイボルト2個にチェーンスリング、支柱のオタフクシャックルにスリングベルトを取り付け、それぞれ相方をクレーン装置のフックに掛けます。
11. チェーンスリングは2本のチェーンが同じ長さになるように調整します。
12. テーブル板の中心位置にクレーン装置を移動させ機械を吊り上げます。
13. 機械が水平に吊り上がらない場合は一旦機械を着地させ、クレーン装置の位置調整やチェーンスリングの長さを調整して再度吊り上げます。

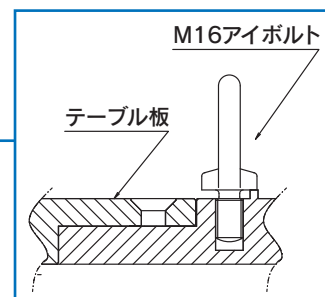


注 意

機械を釣り上げる前にブレーカーを断った後、電源線を外してください。
吊り上げ時はベルトが外れないこと、水平に釣り上げられているか確認しながら行ってください。

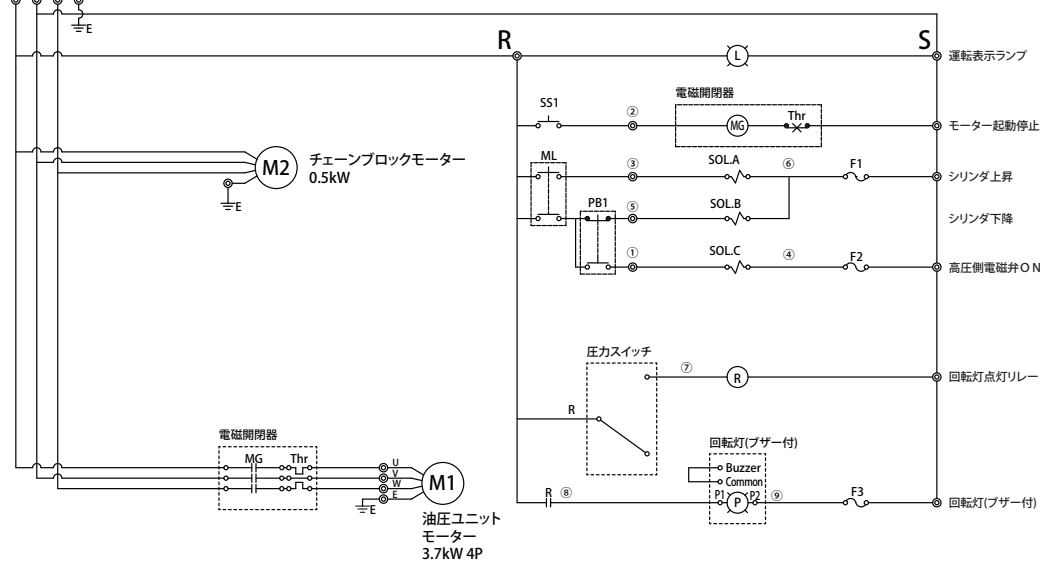


⑦緩衝材を当てて傷が
付かないようにする

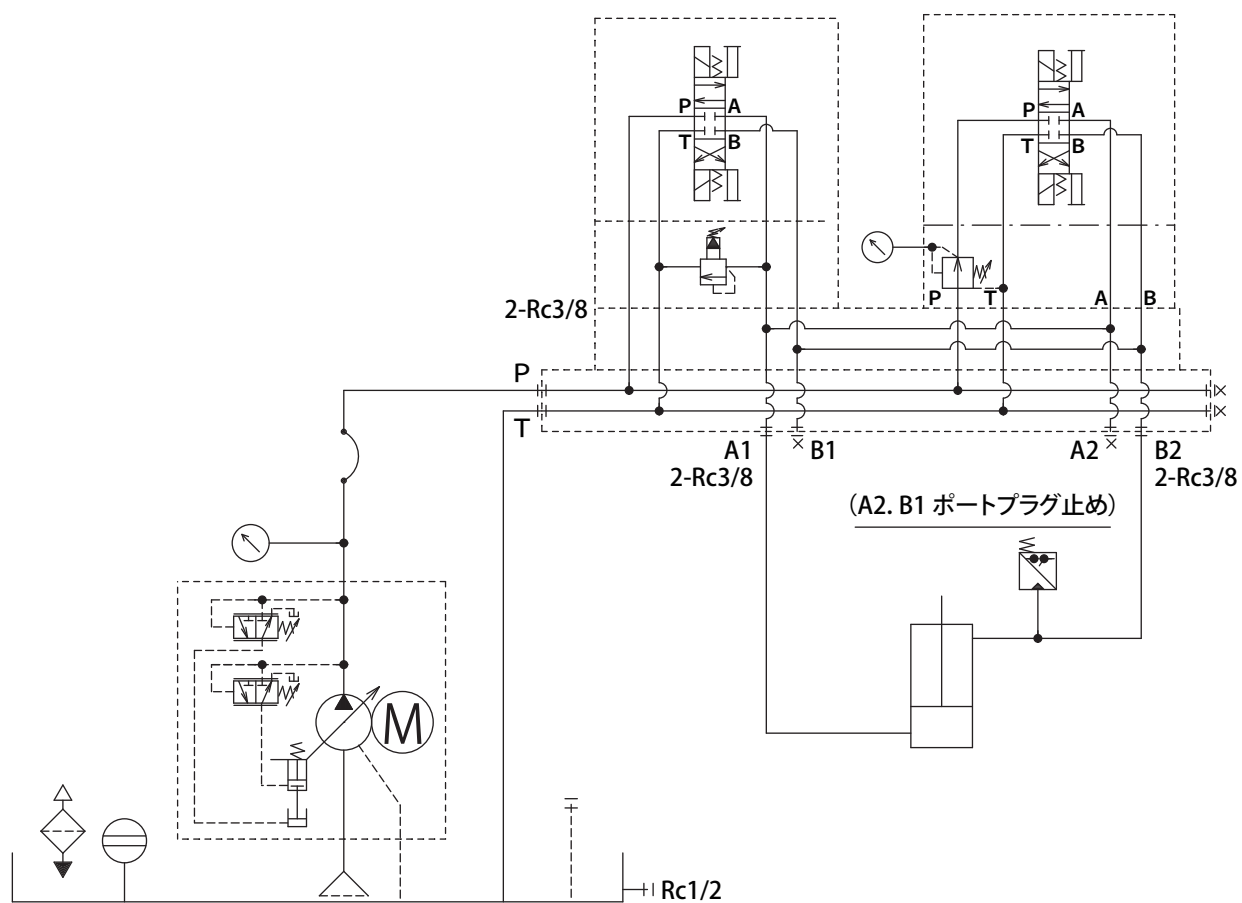


(4)電気回路図

R S T E 電源:200V 3相 50/60Hz



(5)油圧回路図



5. 取り扱い方法

(1) 始業点検

毎日、作業前に必ず始業点検を行ってください。

- ①チェンジャー本体およびアタッチメント類に外観上の異常(変形、破損、摩耗等)はないか。
- ②各ボルト、ナット類の緩みはないか。
- ③油圧ユニット、油圧ホース、接続部、シリンダに油漏れがないか。
- ④油圧ユニットモーターは正常に回転し圧力が上がるか。
- ⑤シリンダ(ピストン、センターシャフト)は正常に作動するか。



警告

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまではチャレンジャー使用を禁止して、直ちにお買上げの販売店に連絡してください。
そのままお使いになるとチェンジャーの破損および重大事故につながる危険性があります。

(2) 操作スイッチと各部の動作

●チェーンブロック操作スイッチ

チェーンブロックを上げる時は「上」、下げる時は「下」のスイッチを押します。



警告

本機に付属のチェーンブロックの許容荷重を超える重量物は絶対吊り下げないでください。



注意

チェーンブロックの取扱いは付属の取扱説明書をご覧ください。

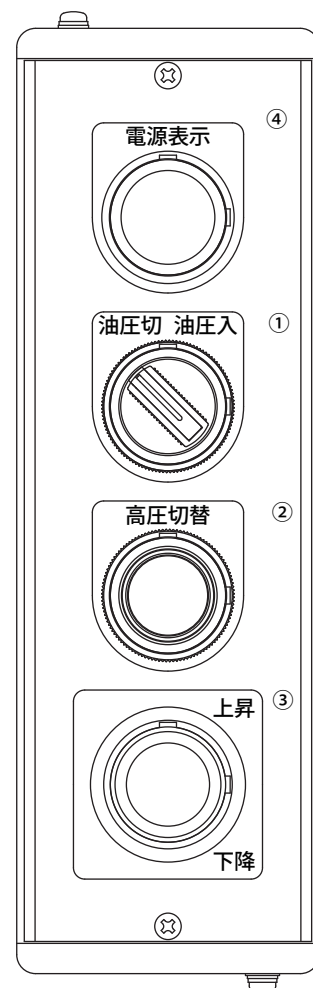
●操作ボックス

- ① 油圧入切
油圧ユニットのON/OFFを行います。ONにすると油圧ユニットが始動し、OFFにすると油圧ユニットが停止します。
- ② 高圧切替
タイヤを加圧する時に50ton以上のプレス能力が必要な場合、②の押しボタンを押しながら、③のモノレバースイッチを下側に操作すると50ton以上のプレスが可能となります。
動作原理は次ページで説明します。
- ③ 上昇下降
ピストンロッド上昇時は上側に、下降時は下側にモノレバースイッチを操作します。
- ④ 電源表示灯
機械本体に電気が来ていれば本ランプが点灯します。



警告

本機の最高油圧力は上昇側5Mpa、下降側15Mpaです。設定圧力は絶対に変えないでください。



注意

**電線の断線などによる単相運転にご注意ください。
単相状態で使用した場合、油圧ユニット用モーターを損傷するおそれがあります。**

●高圧切替機能

本機は安全の為、タイヤ加圧時のプレス能力を最大50tonに制限しておりますが、より強いプレス能力が必要になった場合、下図のように操作ボックスの「高圧切替」ボタン押しながら、モノレバースイッチを「下降」側に操作した場合のみ、油圧ユニットの電磁操作弁が切り替わり、50ton以上のプレスが可能となります。



通常加圧時プレス操作



高圧切替時プレス操作

●高圧時の使用者への警告

50ton以上でタイヤを加圧中にプレス能力が70tonに達した場合、下図のように警告用回転灯の点灯とブザー動作により、使用者に危険を警告します。



6. 操作手順

(1) タイヤ脱着作業時の警告、注意事項



警告

- ロックナットはネジシャフトにネジ部を完全にネジ込んで作業してください。ネジ込みが不完全な場合、ロックナットが外れ重大な事故に繋がる恐れがあります。
- タイヤ、アタッチメント類を吊り下げる場合はバランスに注意してください。バランスが悪いと平衡が崩れ吊り下げ物が落下し、思わぬ事故に繋がる恐れがあります。
- タイヤ、アタッチメント吊り下げ用ワイヤーは、傷・ホツレ等が無いものを使用してください。
- ネジシャフト動作時、不用意に体を近づけないでください。アタッチメント等が外れた場合、大ケガをする可能性があります。



注意

- タイヤ加圧時はアタッチメント類が傾かないよう均等に加圧してください。ネジシャフトに偏荷重が加わりますと、ネジシャフトが曲がる恐れがあります。
- タイヤ組込時、タイヤのビード部やホイールには必ずビードクリームを塗布してください。塗らずにタイヤ組込した場合ビード部を損傷する恐れがあります。
- タイヤ、ホイール及びアタッチメント類に過大な荷重をかけないでください。変形または損傷に繋がる恐れがあります。
- ネジシャフトやシリンダーロッドは傷が付かないよう、ホイールやアタッチメントは慎重に取り扱ってください。傷が付いた場合、油漏れの原因になります。
- プレッシュャープレート使用時には付属の「落下防止チェーン」をネジシャフト及びロックナットに巻き付けてください。

(2)DTリム(合わせホイール)のタイヤ脱着

タイヤサイズ：6.50-10

A. リム解き

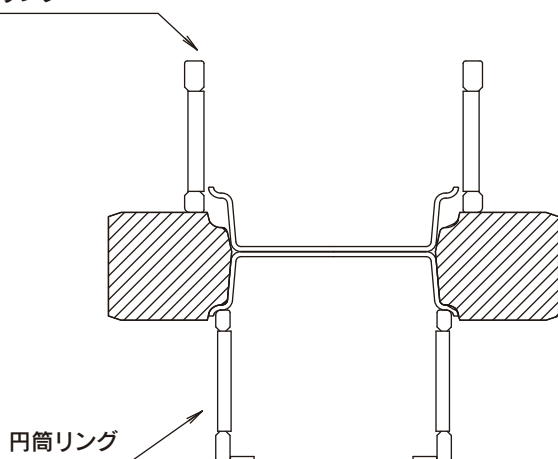
- ① テーブル板上にホイールサイズに応じた円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。
- ② 予め取り付けボルトを外したタイヤを円筒リング上にセットします。



- ③ ネジシャフトを伸ばします。
ホイール外径より僅かに大きな円筒リングまたは脱着リングを選びタイヤの上に置きます。さらにその上にプレッシャープレートを置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



円筒リングまたは
圧入リング



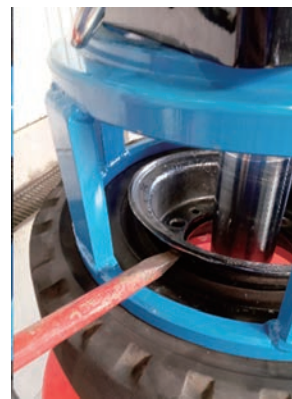
注 意

アタッチメントやタイヤはテーブル板の中心に置いてください。

ロックナットは プレッシャープレートの切込み方向と直角になるようセットしてください。

- ④ タイヤを加圧し、タイヤのビード部とリム部に隙間ができたなら、タイヤレバー等を差し込んで上側リムをこじ上げます。

上側リムが外れたら加圧を緩め、
タイヤ上のアタッチメントを外します。

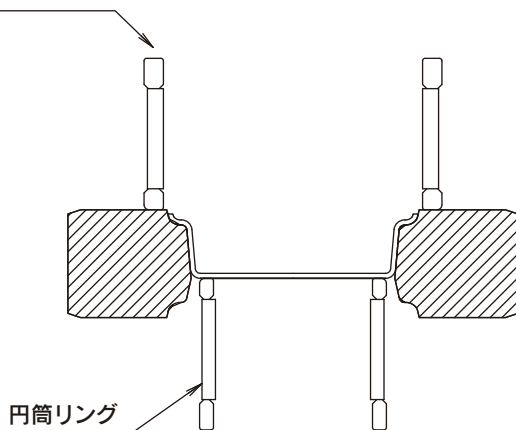


- ⑤ 一旦テーブル板上のタイヤ、アタッチメント類を取り除きます。リムの内径よりも小さなアタッチメントを選択し、センタリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ⑥ 上側リムを外したタイヤを反転して⑤のアタッチメントに置き、ホイール外径より大きな円筒リングまたは脱着リングをタイヤの上にセットします。さらにその上にプレッシャープレートを置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。

円筒リングまたは
圧入リング



- ⑦ 加圧してタイヤをテーブル板上に落とします。



注 意

タイヤと一緒にアタッチメント類も落下します。
手、足等が当たらないよう注意してください。

B. リム組み

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じた円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② 円筒リングに下側リムを乗せます。



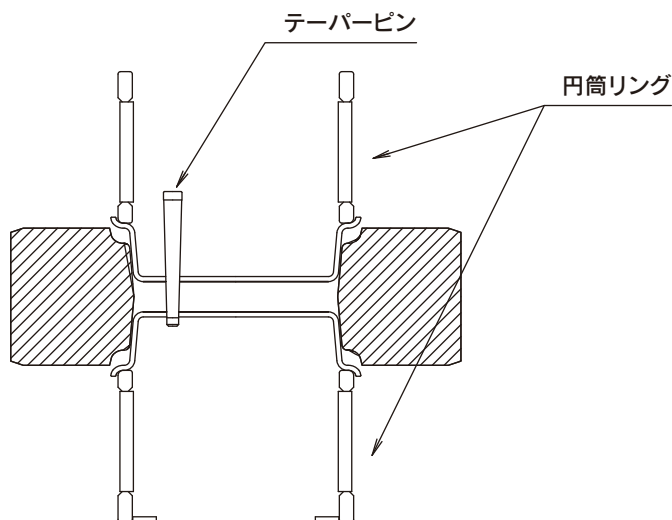
- ③ タイヤ、上側リムの順で下側リム上に置きます。
上側と下側リムはボルト穴が一致するように置き、付属のテーパーピンをボルト穴に3本セットします。



注 意

テーパーピンは必ず使用してください。使用しない場合、上、下のボルト穴が合わずボルトが取付かないことがあります。

- ④ 上側リム上に下側と同じサイズの円筒リングを置きます。
さらにその上にプレッシャープレートを置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ⑤ 加圧して上下リムを同時に組み込みます。
上、下のリムのディスク部が近づいたら加圧を止め、そのままの状態でのボルトの仮締めを行います。



注意

上、下リムのディスクが接触した状態で加圧を続けるとリム、ディスク等が変形するおそれがあります。



(3)3ピースSDCリムのタイヤ脱着

タイヤサイズ：6.00-15

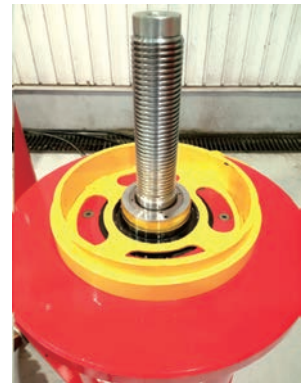
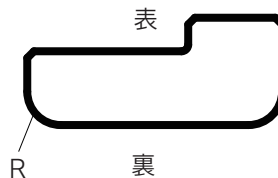
A. リム解き

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じたスペーサーをセンタリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。
- ② リング側を上にしてタイヤを置き、その上にタイヤ押えスペーサーをセットします。



注意

タイヤ押えスペーサーは表、裏があります。右図の通り角部にRがついたほうが裏側です。



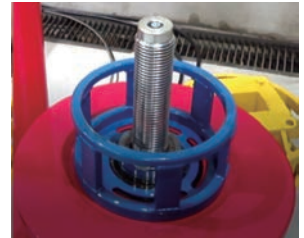
- ③ さらに脱着リング、プレッシャープレートでサイドリング押えの上に置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。
タイヤを加圧し、ロックリングが完全に見えた所で加圧を止めます。
ロックリングのカットした部分にリング抜きレバーを挿入して押し下げた状態でもう一本のレバーでロックリングを順次抜いてきます。



- ④ ロックリングが外れたらタイヤレバー等でサイドリングをこじ上げます。



- ⑤ 加圧を緩め、一旦タイヤ、アタッチメント類を取り除きます。
テーブル板上のセンタリングガイドに沿ってセンタリングスペーサー、リムの内径よりも小さめの円筒リングを順に置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ⑥ サイドリングを取り外したタイヤのサイドリング側を下にして置きます。
脱着リング、プレッシャープレート順に置き、ロックナットをネジシャフトにねじ込みます。



- ⑦ 加圧してタイヤをテーブル板上に落とします。



B. リム組み

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じたスペーサーをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② スペーサーの上に、リング側を上にしたホイールを置きます。
この時、ホイールにサイドリングのズレ防止用凸起部があるものは、その位置をチョーク等で印を付けておいてください。



- ③ タイヤをホイール上に水平に置き、その上に脱着リング、プレッシャープレートの順に置き、ロックナットをネジシャフトにねじ込みます。
加圧してタイヤをホイールに組み込みます。



- ④ 加圧を緩めて、プレッシャープレート、ロックナット、脱着リングを外し、タイヤの上にサイドリング、ロックリング、の順に置きます。
この時、ホイールの②で印を付けた位置にサイドリングの切込部を合わせ置いてください。

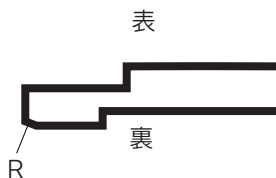


- ⑤ サイドリング押え、脱着リング、プレッシャープレートの順にアタッチメントを置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



注 意

サイドリング押えは表、裏があります。右図の通り角部にRがついた方が裏側です。



注 意

3ピースリムにはサイドリングのズレ防止のため、凸起部が付いているものがあります。
加圧し過ぎた場合、この凸起部が破損したサイドリングも変形することがありますので注意してください。

- ⑥ 加圧してサイドリング上面がロックリング挿入溝より下がったところで加圧を止めます。
ロックリングの片側の爪をホイールの溝に引っかけて、片方のリング抜きレバーでロックリング爪を押さえ、もう1本のレバーでロックリングを挿入します。



- ⑦ ロックリング挿入が完了したら加圧を緩め、ロックナット、プレッシャープレートを外し、脱着リング、サイドリング押え、タイヤを降ろします。



警 告

タイヤは水平に圧入してください。斜めになった状態で圧入すると、ネジシャフトが曲がる恐れがあります。

(4)2ピースリムのタイヤ脱着

タイヤサイズ：5.50-15

A. リム解き

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じたスペーサーをセンタリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② リング側を上にしてタイヤを置き、ホイール外径より大きいタイヤ押えスペーサー、脱着リング、プレッシャープレートを置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ③ タイヤを加圧してサイドリングが完全に見えたところで加圧を止めます。
サイドリングのカットした部分にリング抜きレバーを挿入して押し下げた状態でもう一本のレバーの先端部を切欠き部に挿入し、サイドリングを引き上げます。
サイドリングの下にできた隙間にレバーを挿入し、サイドリングを溝より上側にこじ上げます。



- ④ 加圧を緩め、一旦タイヤ、アタッチメント類を取り除きます。

テーブル板上のセンタリングガイドに沿ってセンタリングスペーサー、リムの内径よりも小さめの円筒リングを順に置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ⑤ サイドリングを外したタイヤのサイドリング側を下にして置きます。

脱着リング、プレッシャープレートの上に置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。

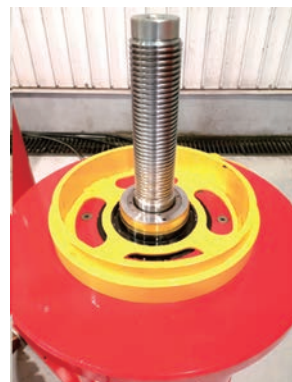


- ⑥ タイヤを加圧してテーブル板に落とします。



B. リム組み

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じたスペーサーをセンタリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② ホイール、タイヤ、サイドリングを置き、ホイール外径より大きめのタイヤ押えスペーサーを乗せます。脱着リング、プレッシャープレートの順に置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ③ 加圧してタイヤのビード部上面がホイールのサイドリング挿入溝より下がったところで加圧を止めます。

- ④ サイドリングの片側の爪をホイールの溝に引っかけます。片方のリング抜きレバーでサイドリングをホイール溝に押し込みながら、もう1本のレバーでサイドリングを叩いて挿入していきます。



- ⑤ サイドリング挿入が完了したら加圧を緩め、ロックナット、プレッシャープレートを外し、脱着リング、タイヤ押えスペーサー、タイヤを降ろします。

(5)4ピースTBリムのタイヤ脱着

タイヤサイズ：6.50-10

A. リム解き

- ① テーブル板上にホイールサイズに応じた円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② リング側を上にしてタイヤを置き、その上にホイール外径より大きい円筒リングを置きます。
さらにその上にプレッシャープレートを置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ③ タイヤを加圧してロックリングが見えたら加圧を止めて、サイドリングをレバー等で軽く叩き緩めてから半割れのロックリングをレバー等で抜きます。



- ④ ロックリングが外れたら、加圧を緩めてプレッシャープレートを外してセンターシャフトを下降させ、円筒リングを降ろします。
サイドリングを外し、タイヤ、円筒リングをテーブル板上より降ろします。



- ⑤ テーブル板上にリムの内径よりも小さな円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。

- ⑥ サイドリング側を下にしたタイヤを円筒リング上に置き、その上にホイール外径より僅かに大きな円筒リング、プレッシャープレートの上に置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。

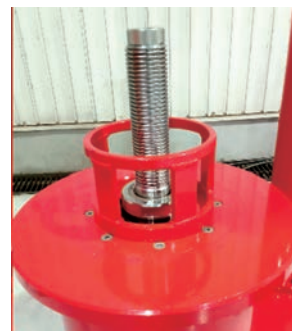


- ⑦ タイヤを加圧してテーブル板に落とします。

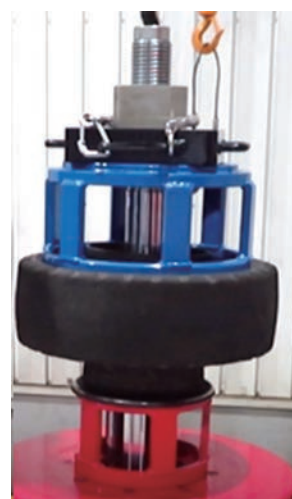
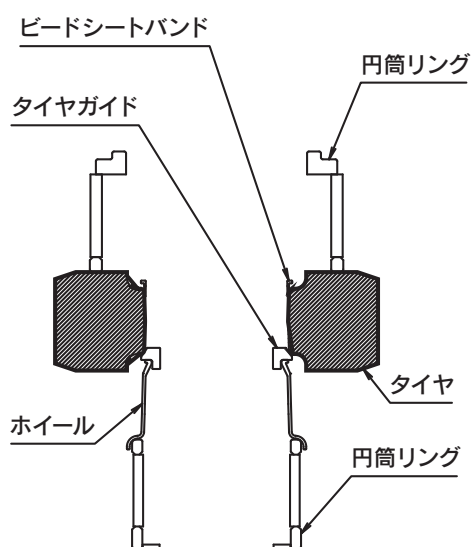


B. リム組み

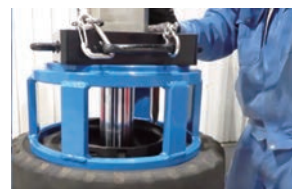
- ① テーブル板上にホイールサイズに応じた円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いことを確認します。



- ② 円筒リングの上にリング側を上にしたホイールを置きます。その上にタイヤガイド、タイヤ、ビードシートバンドの順で置き、ホイール外径より大きめの円筒リングを乗せ、さらにその上にプレッシャープレートを置き、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ③ タイヤを加圧してタイヤビード部上面がホイールのロックリング挿入溝より下がったならば加圧を緩めます。円筒リング、プレッシャープレート、ロックナットを外し、タイヤガイドを取り除いたら、再度、円筒リング、プレッシャープレート、ロックナットを取り付けて加圧し、レバー等で叩きながらリムとタイヤの間にビードシートバンドを挿入していきます。



- ④ ビードシートバンドの挿入後、加圧を緩め、ロックナット、プレッシャープレート、円筒リングを外して、タイヤの上にサイドリングを置き、再度、円筒リング、プレッシャープレートを載せ、ネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ⑤ 加圧してタイヤのビード部上面がホイールのロックリング挿入溝より下がったところで加圧を止めます。
この時、半割れのロックリングを挿入する隙間が無い場合は、レバー等で叩きながらビードシートバンドをより下側に押込むことで、隙間を作ります。



- ⑥ 隙間ができたならば軽く叩きながら半割れのロックリングをリムとサイドリングの間に挿入していきます。

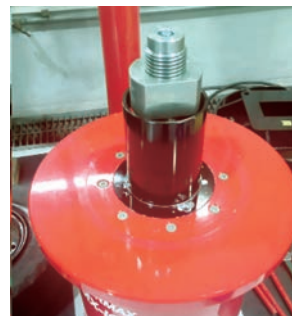


- ⑦ ロックリングの挿入が終わったら、加圧を緩め、ロックナット、プレッシャープレート、円筒リングを外して、タイヤとテーブル板上の円筒リングを降ろします。

- ⑧ ホイールの嵌合を確認してください。
ロックリング等がうまく噛み合わない場合、嵌合確認方法の一例を次ページに記しますので、実施してください。

●嵌合確認方法例

- ① テーブル板上にリムの内径よりも小さい円筒リングをセンターリングガイドに沿って置き、芯ずれが無いこと確認します。



- ② リング側を下にしてタイヤを置き、タイヤの上にホイール外径より大きめの円筒リングを置きます。
さらにその上にプレッシャープレートを置きネジシャフトにロックナットをねじ込みます。



- ③ タイヤを少し加圧することで、ホイールのロックリングが噛み合うか確認します。

- ④ 加圧を緩め、ロックナット、プレッシャープレートを外し、円筒リングとタイヤを降ろします。



7. メンテナンス



危険

- 点検の際、電気部品に触れる必要がある場合は、必ず電源を切ってください。
また元電源を入れたまま電気部品に触れる必要がある時には、端子等に触れないよう充分注意してください。



注意

- カバー等はずして点検を実施した場合は、必ず元通りに全ての取付けねじ等を使用して元に戻しておいてください。
- 点検の結果、異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまではチェンジャーの使用を禁止して、直ちにお買上げの販売会社に連絡してください。そのままお使いになるとチェンジャーの破損および重大な事故につながる危険性があります。

1. 油圧ユニット内オイルを交換、または給油する場合は当社純正のハイドロリックオイル、または市販のタービン油 (ISO VG32～56) を使用してください。



注意

オイルの交換は1回/年必ず実施してください。
交換時、シリンダは一番縮んだ状態でオイルを50L投入してください。

8. 作動不良時の処置



注 意

異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不具合の場合は、お買上の販売会社へご相談ください。

(1) 油圧ポンプが回らない。

- モーターが単相運転になっていないか電源、電源コードを調べる。
- サーマルリレーがはたらいていないか



下図■印部のサーマルリレー復帰ボタンを押してください。

サーマルリレーは作動してからしばらくは復帰しません。2～3分待ってから押してください。

(2) シリンダーが上下しない。

- ヒューズが切れていないか。

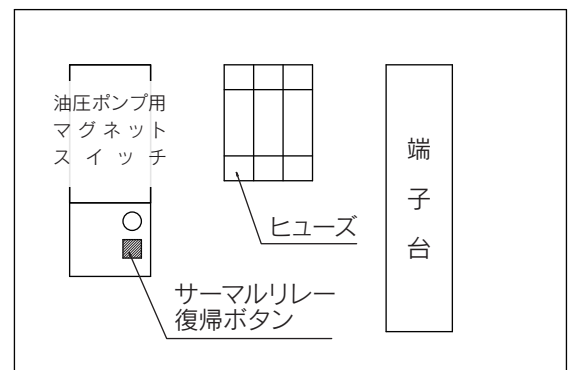


ヒューズ点検、交換

- 配線が逆相になっていないか。



逆相に配線されるとポンプが油を汲上げません。3本のうち何れか2本を入れ替えてください。



制御ボックスの内部

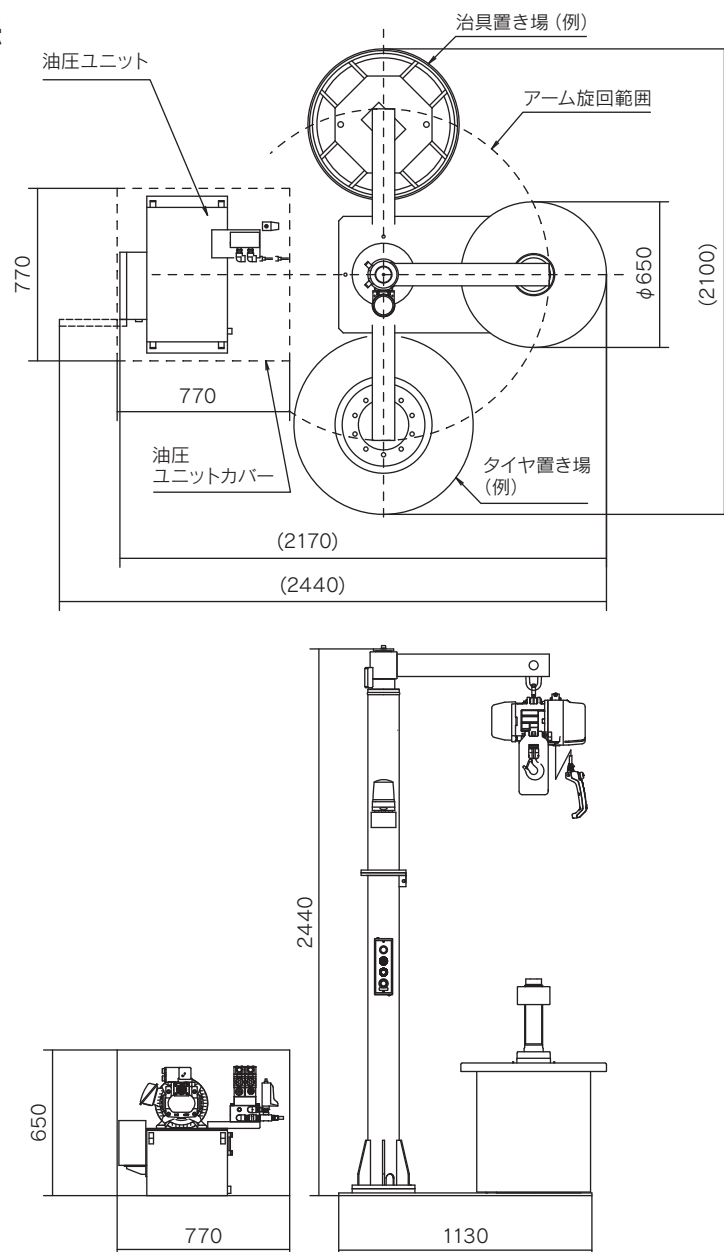
9.仕様

	PMX-100
電 源	3相 200V 50/60Hz
モ ー タ ー	3.7kW, 0.5kW
プ レ ス 能 力	MAX 100トン※ ¹
許 容 サ イ ズ	8"~16"(20") ※ ²
本 体 重 量	640kg
油 圧 ユ ニ ッ ト	130kg

※1:工場出荷時はMAX80tonとなります。

※2:20インチ治具一式にて7.00幅までの20インチホイールに対応できます。

本体寸法



10. 製品保証規定

(1) 保証規定

取扱説明書、本体注意ラベル等の注意書に従って正常な使用状態で保証期間内(納入後1年以内)に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をさせていただきます。

但し、二次的に発生する損失の補償及び、次の場合に該当する故障は保証致しません。

- ①使用上の誤り、保守点検、保管などの義務を怠ったために発生した故障及び損傷。
- ②商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更(改造)を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- ③消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- ④火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
- ⑤指定された純正部品をご使用されなかったことに起因する場合。
- ⑥日本国以外でご使用の場合。
- ⑦保証手続きが不備の場合。(例:型式及び機体番号の連絡が無い場合etc)
- ⑧設置に原因がある故障及び損傷。



注 意

このチェンジャーは屋外設置及び防水仕様になっておりませんので、錆、腐食、漏電等の水による故障は保証いたしておりません。

(2) 保証請求方法

上記規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げの販売会社にご一報ください。必要な手続きを実施致します。

尚、保証の要否は大変勝手ながら弊社に於いて判断させていただきますのでご了承ください。

(3)アフターサービスについて

調子の悪いとき	この取扱説明書の8項目の作動不良時の処置欄をご覧ください。
それでも調子の悪いときは	商品保証規定に従い修理をさせていただきますので、お買い上げ販売会社へ修理を依頼してください。
保証期間中の修理について	保証期間は納入後12ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理させていただきます。
保証期間後の修理について	お買い上げ販売会社にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望によって有料修理致します。
アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買い上げ販売会社にお問い合わせください。	
お問い合わせいただく際は、次のことをお知らせください。 型式・機体番号・購入年月日・故障状況（できるだけ詳しく）。	

上記の事項を下表に記録しておく、お問い合わせの時便利です。

型 式	
機 体 番 号	
購 入 年 月 日	年 月 日
販 売 会 社	社名 担当者
	住所 電 話
設 置 業 者	社名 担当者
	住所 電 話
故 障 日・状 況	年 月 日
	年 月 日

(4)設置(据付)及び移設について

本製品の設置(据付)及び移設は、お買い上げの販売会社へ依頼してください。

移設の場合は販売会社による点検を実施してください。

取扱説明書

品 名 **ノーパンクタイヤチェンジャー パワーマックス**
型 式 **PMX-100型**

初 版 発 行 月 日	令 和 5 年 2 月 1 日
-------------	-----------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 6 年 2 月 5 日
-------------	-----------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------------

改 訂 発 行 月 日	令 和 年 月 日
-------------	--------------------------------

編 集 兼 発 行 者	機 工 技 術 部
-------------	-------------------

発 行	小 野 谷 機 工 株 式 会 社
--------------------------	-------------------

無断複写・掲載を禁ず。



ONODANI 小野谷機工株式会社



本社／福井県越前市家久町63-1 ☎0778-22-2124

札幌営業所	☎011-791-8588	仙台営業所	☎022-255-7408	秋田営業所	☎018-800-2556
東京営業所	☎03-5970-6011	新潟営業所	☎025-281-8251	名古屋営業所	☎052-354-1021
福井営業所	☎0778-21-0335	大阪営業所	☎072-337-5056	広島営業所	☎082-573-5012
四国駐在	☎082-573-5012	福岡営業所	☎092-582-6743	沖縄駐在	☎092-582-6743

「販売会社又は施工業者の方へお願い」
この取扱説明書は、お客様に必ず渡してください。